

災害科学国際研究所

第14回「災害と健康」学際研究推進セミナー

- 日時 2018年6月28日(木) 18:00～19:30
- 会場 星陵キャンパス 医学部6号館1F カンファレンス1
- 講師 栗山 進一

東北大学 災害科学国際研究所
災害医学研究部門 災害公衆衛生学分野 教授

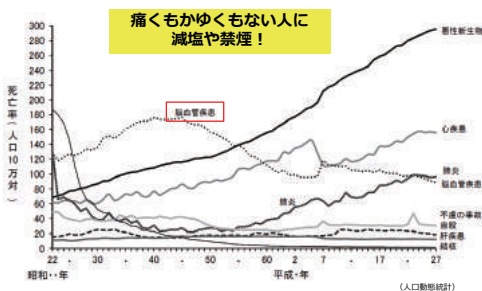


演題 『公衆衛生学と人工知能解析技術を用いた災害対応』

公衆衛生学では痛くもかゆくもない方々に対して、病気予防の必要性に気付いてもらい、さらに病気になった際に健康被害が最も少なくなるよう予防的な行動変容を実現していきます。例えば「塩」などという極めて「おいしい」ものの摂取を集団で減らすことに成功し、循環器疾患を減らしていきました。この考え方と手法は防災・減災においても同様に用いることができます。今回は、①被災診断、②防災意識向上、③急性期のライフジャケット等の活用、④人工知能も用いた救助・避難・救護計画、⑤亜急性期におけるひと・ものの適正配送、⑥衛生管理、⑦復興期における慢性疾患対策、⑧メンタルヘルス対策といった課題について、発災前から発災後のあらゆる時間軸で災害にどう立ち向かうか、最新の災害公衆衛生学の進捗をご報告いたします。是非奮ってご参加ください。

○主催 「災害と健康」プロジェクトユニット

主要死因別にみた死亡率（人口10万対）の推移



「フロートバック」の特徴



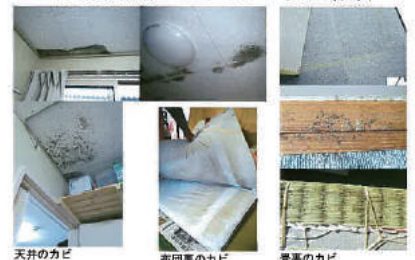
着脱を失っても呼吸用に浮くので呼吸が確保できる

- POINT1 72時間浮き続けることが可能
津波に押し流されても体が浮かび上がります。
- POINT2 簡単装着
津波到着までの短時間で誰でも簡単に素早く装着。
(着用試験で小学生3名の平均着用時間は24秒)
- POINT3 高い視認性
メイン生地は救難色のオレンジ色。
反射テープ付きなので夜間でも発見の可能性を高めます。

- 企業さんとの共同開発
- ・GPSの装着
 - ・プロテクター機能の強化
 - ・保温機能の強化
 - ・誤飲防止マスクの追加
 - ・etc.

(写真POINT: DSCサポート株式会社より)

応急仮設住宅でのカビ発生被害



天井のカビ

布団裏のカビ

畳裏のカビ

※本セミナーは医学系研究科系統講義コース科目等指定科目に振り替えることができる特別セミナーを兼ねています

【お問い合わせ先】

東北大学災害科学国際研究所
災害と健康プロジェクトユニット
TEL: 022-728-2372
メールアドレス: dhu_jimu@irides-dpsy.med.tohoku.ac.jp

